

月刊 まち・コミ 2012年10・11月号



● インフォメーション ● <http://park15.wakwak.com/~m-comi/>
特定非営利活動法人(NPO法人) 認証に向けて手続きを進めています。詳しくは本誌5ページをご覧ください。



今月の注目記事 ● P 5 特定非営利活動法人(NPO 法人) 申請中です

まち・コミの東日本大震災被災地支援

今年度よりまち・コミは、神戸の御蔵事務局に加え、宮城県石巻市にも拠点を置き、復興まちづくり支援を本格的に開始しました。今号では、まち・コミが“何を活かして”“何に取り組んでいるのか”をお伝えします。

1. 阪神淡路大震災の経験を活かして

これまでのまちづくり活動^{※1)}で養ってきた技術は

「情報収集技術」仮設団地の話し合いの場から、地域への誘導のため、名簿整理と現地調査

「会議運営技術」 “コミュニティー復興のための論点探し” “まちづくりの話し合い

のイメージや議題作り” や “外部応援団を地域に活かすための事務局作り”

「ネットワーク作りの技術」 “住民同士の情報共有方法” や “情報収集のための他団体とのつながり作り”

であると考えています。



大学生の視察受入のミーティングの様子(味六亭にて)。

石巻事務所を提供してくださっている方がオーナーシェフをされているレストラン「味六亭^{みろくてい}」。石巻訪問の際は、ぜひお立ち寄りください。(場所: 石巻市大街道西1-14-92)

これらの技術をもって、東日本大震災被災地の方々に寄り添い、内発的まちづくりに貢献するため、様々な支援を行っています。

2012年2月からは、石巻市雄勝町の若者が、「防災集団移転のみが議論される被災地で、現地で再建できる選択肢も残してほしい。」と願い、神戸まで専門家に相談しに来、その後、当団体事務所を訪問してくださいました。その後、雄勝町のまちの実際を知るために、まずは住宅地図を持ち、地区の被害状況の調査と、現地の住民や外部支援者への聞き取り調査にとりかかりました。

2. 東日本の被災地での支援方法

【できるかぎりそばに居ること】 半常駐（月20日滞在）し、常に会える距離（石巻市）に居ることで信頼を得て、地域の会議に出席するのはもちろんのこと、現地のまちづくりの専門家には聞きにくい素朴な質問にも対応できるようにしています。

【地域を知る】 常に現地を回り調査しています。地域構造の課題を整理したデータを用い、住民の想いの引き出すようなアドバイスができるようにしています。

【ネットワークを活かし、外部者と繋げる】 常駐者だけでは対応しきれない課題に対しても、阪神・淡路大震災以降17年で培ったネットワークを活かし、住民と共に動くことができる外部の専門家や学生等、外部応援団が現地のまちづくりへ参画する機会を、常駐することでタイミング良くつくっています。

住民が気づき、自主的に行動できるような環境作りに配慮しています。

3. 石巻市雄勝町の現状

現在、東日本の被災地において、防災集団移転促進事業の地区での同意がとられています。雄勝町下雄勝地区においても、2012年6月17日震災後初めて総会が行わ

れ（102世帯中54世帯が参加）、防災集団移転事業の同意が多数決でとられ、賛成45人对反対7人でした。賛成者からは「若干遅かったのかなって感じはするけど今回開かれたことによって進んでいくと思う」、反対者からは「個別相談会も受けてないのに、この場で結論をとってしまうのは性急。1年3ヶ月たって初めて総会開いてその場で結論だしちゃっていいのって思うが」という意見がありました。総会で配られた資料は、計画図はなく、防災集団移転事業と災害公営住宅の家賃の資料のみ。また選択肢は、防災集団移転促進事業に同意するか否かでした。事業における個人の条件も決まらないまま、任意事業であるはずの防災集団移転促進事業に同意せざるを得ない状況になっています。

4. 東日本の被災地で目指すこと

外部者の助言から、まちづくりを担う人が客観視できるようになり、住民の意見が反映され、復興まちづくりの運営がうまくなることを目指しています。まちづくり人の力量がアップすることで、まちづくりの会議の各回の目標設定ができ、運営も継続できるようになり、地域づくりを推進することができると考えています。また、周辺被災地の各まちづくりにも影響を与えると考えます。



地域の会議に出席し、現状把握に努めています。

講演予定

講師として宮定がお話しさせていただきます。

第56回 豊中まちづくりフォーラム

日時：10月16日(火)午後6時30分～ 費用：1000円

会場：摂津水都信用金庫本町支店チャオパルコ(セミナー室)

<豊中駅前マストメゾン(旧・新開地ビル)> 1階

テーマ：『東日本大震災の現状を語る』～私の見た被災地三陸部の復興まちづくりの葛藤～
お申し込みは、有)豊中駅前まちづくり会社 電話：06-6858-6190
豊中まちづくり・フォーラム のホームページ <http://www.tmconet.com/forum.html>

参考

報告ブログ「まち・コミブログ 東日本大震災」<http://machi.comi.blog42.fc2.com/blog-category-35.html>

下記で事例報告させていただきました。

・日本住宅会議サマーセミナー：「石巻市雄勝町の被害と復興」2012年9月4日

・日本都市計画学会 機関誌2012年8月号(p297～298)：「地域に根ざしたまちづくりNPO(外部支援者) - 復興まちづくり(阪神・淡路、東日本大震災)の現場から - 」

視察受入や、大学授業での報告もしています。

関西大学 社会安全学部(菅磨志保ゼミ)
神戸松蔭女子大学 神戸論(授業)



関西大学学生が、住民の方のお話しを現地で聞いている様子。

注1)

阪神・淡路大震災の復興まちづくり

まち・コミは、阪神・淡路大震災発生時、関東から来た2人の外部ボランティアが地元企業経営者と共に設立。その後、メンバーは交代(筆者は設立4年後、大学院修士課程で、都市計画の研究室に在籍中から参加)したが、阪神・淡路大震災により地区の建物の8割が延焼する被害を受けた神戸市長田区御蔵通において、復興まちづくりの支援に17年間継続して取り組んできた。具体的には、建物を失った被災者の約8割が従前地区に戻りたいという意向を示したため、希望が叶うよう、住民と協力し、従前地区で集えるようなイベントの開催、まちづくり協議会の議事録作成等事務局、復興まちづくりに関わる情報(近隣地区の進捗と制度等)の収集、共同再建住宅「みくら5」建設のコーディネート、地域コミュニティスペースの運営支援、地域カルタ「御菅カルタ」づくり、古民家移築集会所建設運営支援等を行い、住民と外部支援者が、まちづくり活動に参加しやすくなるよう意識して環境をつくってきた。

上記の活動において、まち・コミが気をつけたことは、被災者が自身の生活再建や復興事業で精一杯の中、a)生活再建に対し、被災者が内発的に関わり、b)従前地区に戻ることを希望する一人でも多くの人が地区内再建できるよう、仕掛けを考えた。具体的には、地区内に常駐し、生活再建に向けて、自己判断できる材料の得られる環境づくりをした。

台湾への日本古民家移築その後

まち・コミが事務局を努め、福井県大飯郡おおい町にあった大正5年に建てた古民家（作家の水上勉氏の父が棟梁）を2009年に台湾の新北市淡水区に建設しました。それから3年たった現在も台湾のパートナー邱明民さんと引き続き日台交流プロジェクトが行われています。

大河文化基金会の設立（2011年1月19日）

約5000人のボランティアに支えられ、一人一人が力を出し合い大きな力になった一滴水記念館建設（台日交流古民家移築）にて、実感した一人一人の想いを生かす事の大切さ『一滴水』の精神を、今後も活かしていこうと、財団法人大河文化基金会は設立されました。

2011年3月23日今までの古民家移築活動をまとめた「一滴水（中国語）」を出版。

2011年3月29日一滴水記念館開所式のため、訪台し、台湾数力所にて、日本の東日本大震災に関する会に参加し、被災地の状況を報告しました。

東日本大震災被災地を支援

2011年6月、台湾のメンバーが岩手県を訪問しました。2011年夏には、岩手県小本中学校の全校生徒を、台湾嘉義縣へのホームステイを企画、実施。2012年5月30日訪台した達増拓也岩手県知事より、感謝状を受けました。

日本式木造建物（初代淡水鎮長官舎）再生を支援

2012年春、新北市淡水區首任民選鎮長官舎の再生に取り組みました。4月から5月に大工の齋藤賢次氏と細見学氏が、構造部分の大工工事を支援し、台湾の大工や学生にも伝え、まち・コミはその機会をコーディネートしました。

その後も、新北市政府から木造建物の調査を受託。台中縣の三義にて建設される木造寺院の建築を支援します（2012年秋）



台湾の大工さん（写真中央）へ技術指導をする、齋藤氏（右）と細見氏（左）

今後の予定

7年前から台北市の北投駅の再生を、目指して活動している“台北市八頭里仁協會”。長年継続してきたものの、再生費用の募金等に苦労していました。一滴水記念館の情報を知り、自分達で参加して作れば実現できる可能性があるかもと、大河文化基金會を頼ってこられました。2012年9月17日に会合が開かれ、まち・コミより、多くのボランティアに支えられる建築方法の事例を報告しました。

一人一人が力を出せば、実現できることが拡がるというこれまでの活動が、国を超えての広がりを実感し、今後が楽しみです。台日の交流にご興味がおありの方は、まち・コミへご連絡ください。

【参考】

1. まち・コミの台日交流活動は、「台日交流古民家移築事業」でインターネット検索。
<http://park15.wakwak.com/~m-comi/project/18/>
2. 財団法人大河文化基金會 (<http://www.kawa.org.tw>)

まち・コミ news



特定非営利活動法人(NPO 法人) 申請中です

まち・コミュニケーションが任意団体としてスタートしたのは平成8年4月。これまで多くの方々にご支援いただいたおかげで活動を継続することができ、感謝しております。

今後、活動を継続発展させるためNPO法人を目指すことにしました。活動自体は、初心忘れず、現在のものを継続して行ってまいります。

8月19日に、NPO法人の設立総会を行いました。年内にNPO法人の設立ができるよう申請し、準備を進めています。

NPO法人にとどまらず、認定NPO法人を目指しています(早ければ、2年後の申請)。今後とも応援よろしく願いいたします。



まち・コミュニケーション代表 宮定 章

設立総会の様子

年会費はNPO法人に引き継がせていただきます。

申請時の役員は、従前のまち・コミ(任意団体)の顧問、運営委員、事務局スタッフにて、引き続き構成しています。認定NPO法人になると、寄付して下さった方が税制上優遇されます。

大地のつぶやき

〜 東日本大震災を想う Ⅷ 〜

この三月からまち・コミ代表宮定章君は、月のうち二十日以上を宮城県石巻市に入っている。去年は肉体労働が多かったが、今年に入ってまちづくりが傾斜している。中でも雄勝町は町民約四千人のうち約三千人が家を失っている。それ故被災地に人が居ないので、意見を聞くにも仮設や遠く離れたみなし仮設、親戚や友人・知人の家、或いは県外に出られた方が殆どだ。

神戸御蔵でも同じだった。当初の避難所から一週間もすると、どんどん離れていく方が増える。ゆっくり話を聞いている間もない。まちづくりの根拠も非常に軽いものになる。集ってくる人のみでまちづくりはスタートする。神戸市は早くしないと予算がとれないとか、他所はこう進んでいる、これでは乗り遅れると言う。一方仮設に入った人からは、不便だから早く帰りたいと再三再四せつつかれる。まちづくり協議会は広く門戸開放し、住民も地主も家主も参加出来るのだが、週一回の会合に出てくる十人前後で進行せざるを得なくなった。沢山の人の意見を聞くことは物理的に不可能だった。またアンケートも度々取るが、会を重ねる毎に回収率が低くなり、項目の行間の機微が読めなくなってくる。十二年間三百五十回余に及ぶ会合をしたが、達成感も満足感もない。元の居住者帰還率は三分の一位だろう。人口の戻りは現在八十四%。長田区全体の人口は七十七%台。一旦人口が減ると仲々戻らないのが普通だろう。余程条件が良くないとしんどい。

雄勝町では今、防災集団移転事業の活用が進んでいる。これは土地購入費や建築費は利子相当額の補助を除き個人負担となる。被災した元の土地は行政が時価で買い取る仕組みだ。漁師が元の場所から遠く離れた高台では仕事が出来なくなるので、元いた場所に戻りたいとも言っている。漁師にとって船は家でもあり生活そのものでもある。仕事を奪う程苛酷なものはない。人としての誇りとか、自信、尊厳といったものは仕事の中でこそ生まれるもので、仕事のし易い環境こそ望まれるのではないのだろうか。

株式会社兵庫商会 田中保三

まち・コミ活動報告

5/1 ~ 8/31

| | | |
|--------------------------------|-----------------------|---------------------|
| 4/13-5/7【東北復興支援】 | 交流協会 | |
| 5/9【講演】関西大学にて講義 | 5/25 ~ 6/12【東北復興支援】 | 6/30【講演】連合愛知 |
| 5/10から6/27【震災学習】震災体験学習(9校、1団体) | 6/14-17【出石市民農園】たまねぎ収穫 | 【講演】安城市社協 |
| 5/15【視察研修】東京都庁視察 | 6/16【視察研修】磯部地区区長会 | 7/10【講演】関西大学菅ゼミ |
| 5/17・6/21・7/12 運営委員会 | 6/20【視察研修】天王寺区民生 | 7/14【出石市民農園】じゃがいも収穫 |
| 5/21【講演】神戸松蔭大学・講義 | 6/22【講演】関西大学菅ゼミ | 7/22-8/14【東北復興支援】 |
| 5/21【視察研修】福島県観光物産 | 6/22-7/8【東北復興支援】 | 8/19 NPO 法人設立総会 |
| | | 8/19-9/13【東北復興支援】 |

ご支援、ありがとうございます。【順不同・敬称略】

5/1 ~ 8/31

賛助会員(新規・継続)

今田忠(大阪) 大橋良雄(愛知) 津久井進(兵庫) 田中貴宏(広島) 河喜多勝(福岡) 大久保洋子(兵庫) 和田幹司(兵庫)
 連合愛知(愛知) 大東石油株式会社(兵庫) 池田浩敬(静岡) 福岡峻治(東京) 有馬嗣朗(山口) 寿松木宏毅(秋田) 齊田哲平(東京)
 大久保妙子(兵庫) 渋谷光延(兵庫) 鎌田啓通(徳島) 中山貴美子(兵庫) 小林恵美子(京都) 万波一朗(東京) 船越洋平太(京都)
 碓田智子(大阪) 鈴木有(滋賀) 竹内千恵子(兵庫) 末正盛隆(兵庫) 六ノ坪合資会社(兵庫) 大塚康央(大阪) 新川泰道(秋田)
 津田四郎(兵庫) 小森宰平(兵庫) 桜井明子(兵庫) 西村内張商会(兵庫) 株式会社森口商会(兵庫) 横田尚俊(山口)
 キリンビバレッジサービス株式会社(兵庫) 田中貢(大阪) 木村徹(広島) 伊藤紀忠(大阪) 北島繁昭(埼玉) 橋本敏子(千葉)
 安藤厚子(高知) 唐澤和義(東京) 川崎茂(大阪) 照屋さつ子(兵庫) 大牟田智佐子(大阪) 成田千尋(京都) 濱岡歳生(山口)
 下土居希(東京) 原田元基(兵庫) 江田隆三(東京) 川村武也(兵庫) 佐藤那央(滋賀)

寄付 中島祥博(兵庫) 土井淑子(兵庫) 辻野芳郎(兵庫) 田間泰子(大阪) 井上赫朗(東京)

協力 社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都) 株式会社兵庫商会(兵庫県神戸市) 味六亭(宮城県石巻市)

新規賛助会員募集&更新のお願い

まち・コミでは、さらに活発に活動を行うため、賛助会員を募集し、金銭面でのご支援をいただいております。会費は、事業推進のために活用させていただきます。賛助会員のみなさまには、会員特典をご用意しておりますので、ぜひ賛助会員への登録をお願いいたします。

また、賛助会員は1年更新とさせていただきます。現在賛助会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。(期限は、「月刊まち・コミ」郵送時の封筒の、宛名の下に記載していますので、ご確認ください。)

会員のみなさまへは

本誌「月刊まち・コミ」の送付
 Eメールでの情報送付
 をし、活動のご報告をいたします。

よろしくおねがいいたします。

編集後記 出石市民農園で例年育ててきた黒大豆の枝豆は、今年は収穫できませんでした。近隣で栽培されている方をご紹介しますので、ご希望の方は事務局までご連絡ください。(戸)

年会費

個人・法人 年間5000円
 学生 年間3000円

郵便振替口座番号

00950-3-42788

口座名称

「まち・コミュニケーション事務局」

| | |
|---------------------------------------|--|
| 2012年10月1日発行 | |
| 編集/発行 まち・コミュニケーション | |
| 御蔵事務所 | 〒653-0014 神戸市長田区御蔵通5-5 TEL 078-578-1100 / FAX 078-576-7961 |
| 東京事務所 | 〒162-0052 東京都新宿区戸山1-24-1 早稲田大学文学部浦野研究室内 |
| 神奈川事務所 | 〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1-1 専修大学人間科学部部大矢根研究室内 |
| e-mail m-comi@bj.wakwak.com | |
| URL http://park15.wakwak.com/~m-comi/ | |